06 設計演習 II
2．地域の図書館－地域図書館＋○○○－

開講年次：学部２回生 後期

［担当教員］
黒田龍二（教授） 槻橋修（准教授） 栗山尚子（助教）
［Teaching Assistant］
坂口大賀（A64） 瀬川瑞（A64） 仲川絵理（A64）

■演習のねらい
(1) 公共図書館のネットワークと役割分担，図書館の機能，図書館建築の機能・空間構成を理解すること。
(2) 施設が立地する地域の歴史，空間的・社会的特徴を把握し，地域コミュニティ施設のあり方を考えること。
(3) 以上を踏まえて，地域コミュニティ施設としての図書館の望ましい空間を提案すること。

■計画建物の概要
(1) 延床面積 1,600 ㎡前後
（±10％程度の増減は可，ピロティ，庇，バルコニー，屋外階段等は面積に参入しなくてよい。）
注意：敷地 I，II はともに容積率 200％の地区で 3 千㎡以上の敷地面積があるが，本課題では上記の延べ床面積とする。
(2) RC造，鉄骨造，または木造（準耐火建築物）
(3) 階数／複数階（平屋建ては不可）

■提出図面・用紙
(1) 所要図面
配置図 1／500 建物本体については屋根伏図で示すこと。
各階平面図 1／100 1階平面図には外部空間の計画を明示のこと。
立面図 1／100 2面以上。
断面図 1／100 設計意図のわかる断面を1面以上。
透視図（必須）1 点以上 図面にはりこむなどして提出図面のサイズは統一
模型写真（必須）1 点以上
※断面図、透視図、模型写真は設計の意図が十分に伝わる部分を適切に選ぶこと
(2) 用紙： A1ケント紙あるいは同等の紙（プレゼンテーションの工夫として色つきの紙でもよい）
鉛筆，インキング等の仕上げ自由。
模型写真の貼込みなどは可とするが，図面一枚全部をプリンタ出力の場合，貼り合わせは不可。A1 一枚ものとして出力のこと。

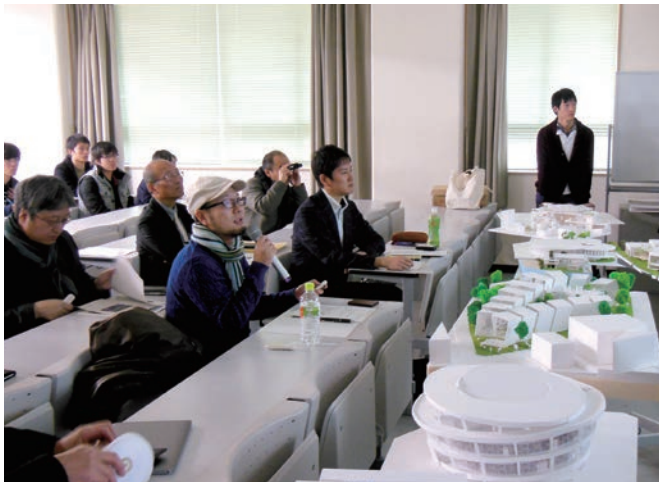
■敷地 I
阪急六甲駅南側，六甲八幡神社境内に隣接する敷地。
敷地面積 約 3,230 ㎡
第一種中高層住居専用地域／建蔽率 60％，容積率 200％

課題；敷地 I

■敷地 II
阪神新在家駅南側，新在家南公園の北側の敷地。
敷地面積 約 3,103 ㎡
準工業地域／建蔽率 60％，容積率 200％

課題；敷地 II

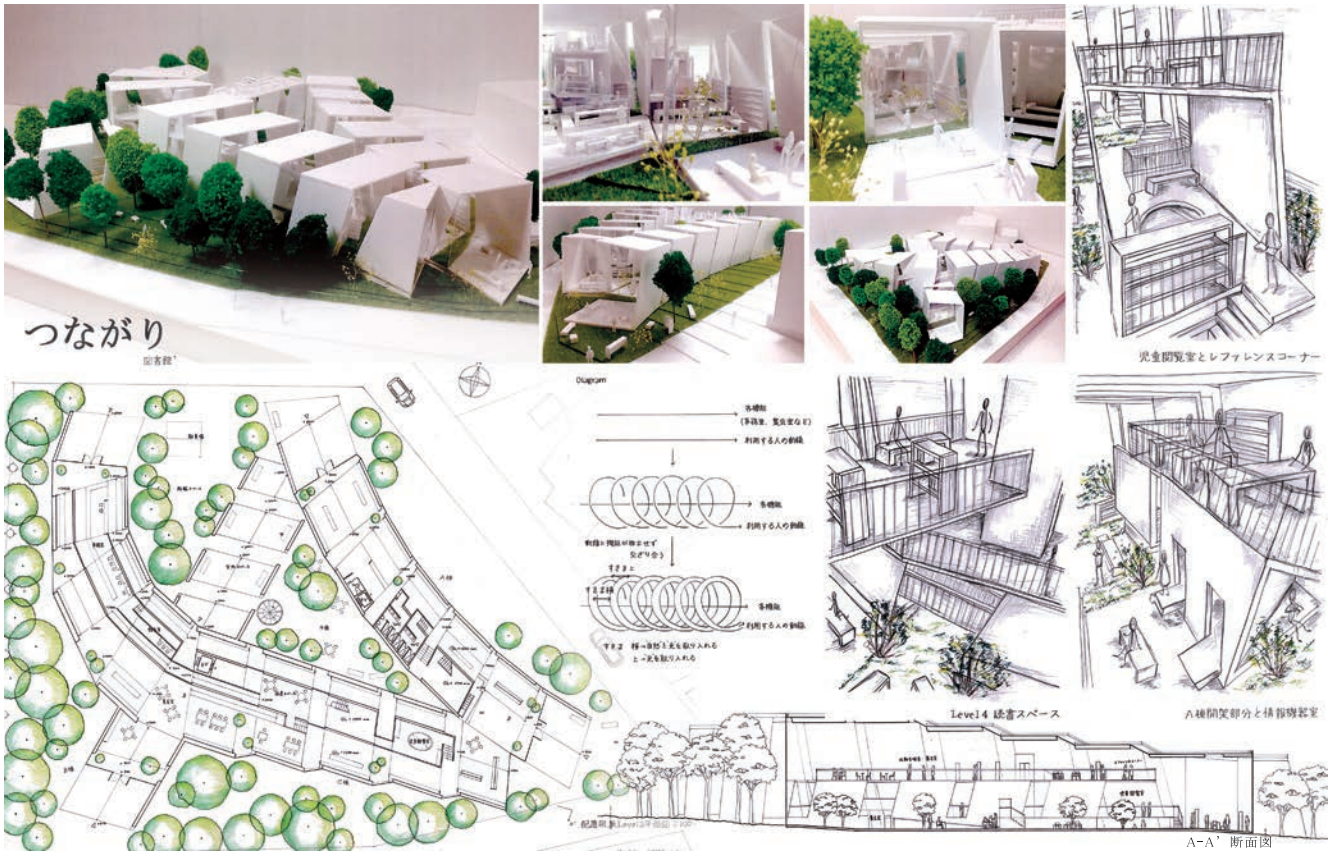
■講評会の様子
［OBゲスト講評者］
小畦雅史氏（小畦雅史建築設計事務所，AC6）
伊藤昭裕氏（佐藤総合計画，AC7）



つながり

大西琴子

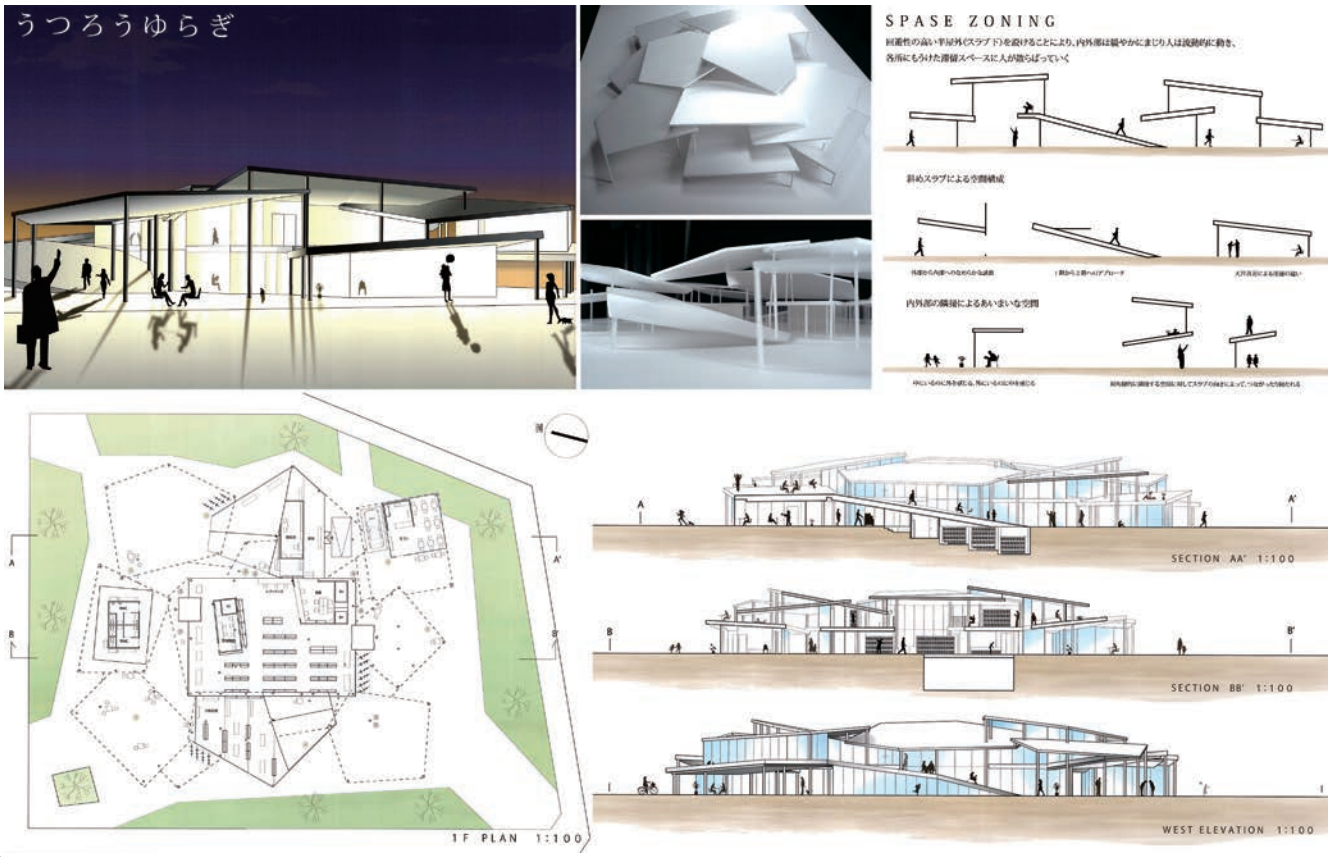
図書館離れの根本的解決策は行くことが習慣になる環境を作ることだろう。それを動線を利用することで解決した。また側面のガラス幅を変化させることで光や緑を取り込み、カーブを作ることに繋がった。自然に本と出会い様々なつながりを生む図書館が完成した。



うつろうゆらぎ

佐伯健士朗

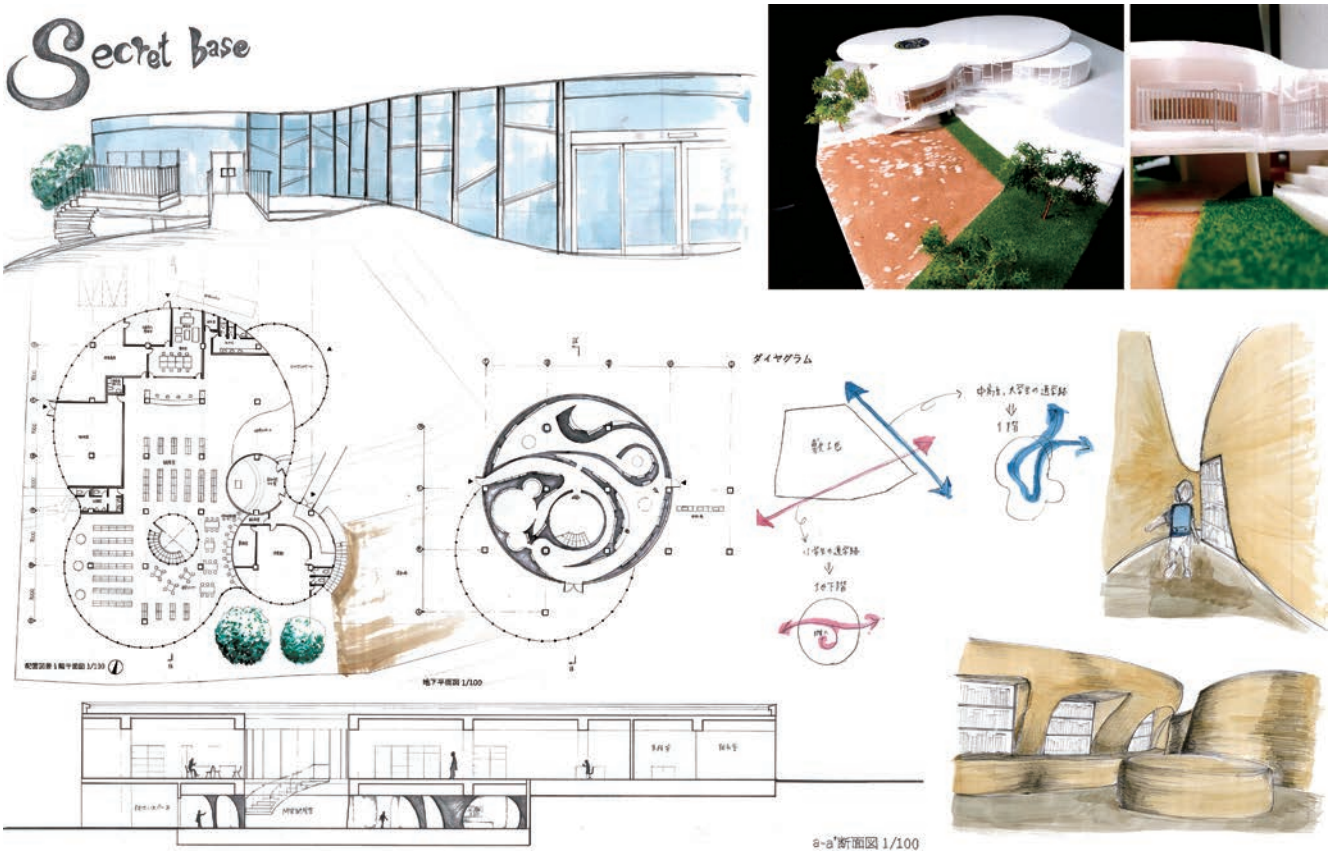
図書館に人を呼び込むために様々な機能を分散させ、それらを斜めスラブでできた半屋外スペースがゆるやかにつなぐ。そこにできた空間で人は本を片手に行き来しくつろぐ。この図書館は本棚の並ぶ内部と人の動線が交わる外部の敷地全体で1つの建築を作ってる。



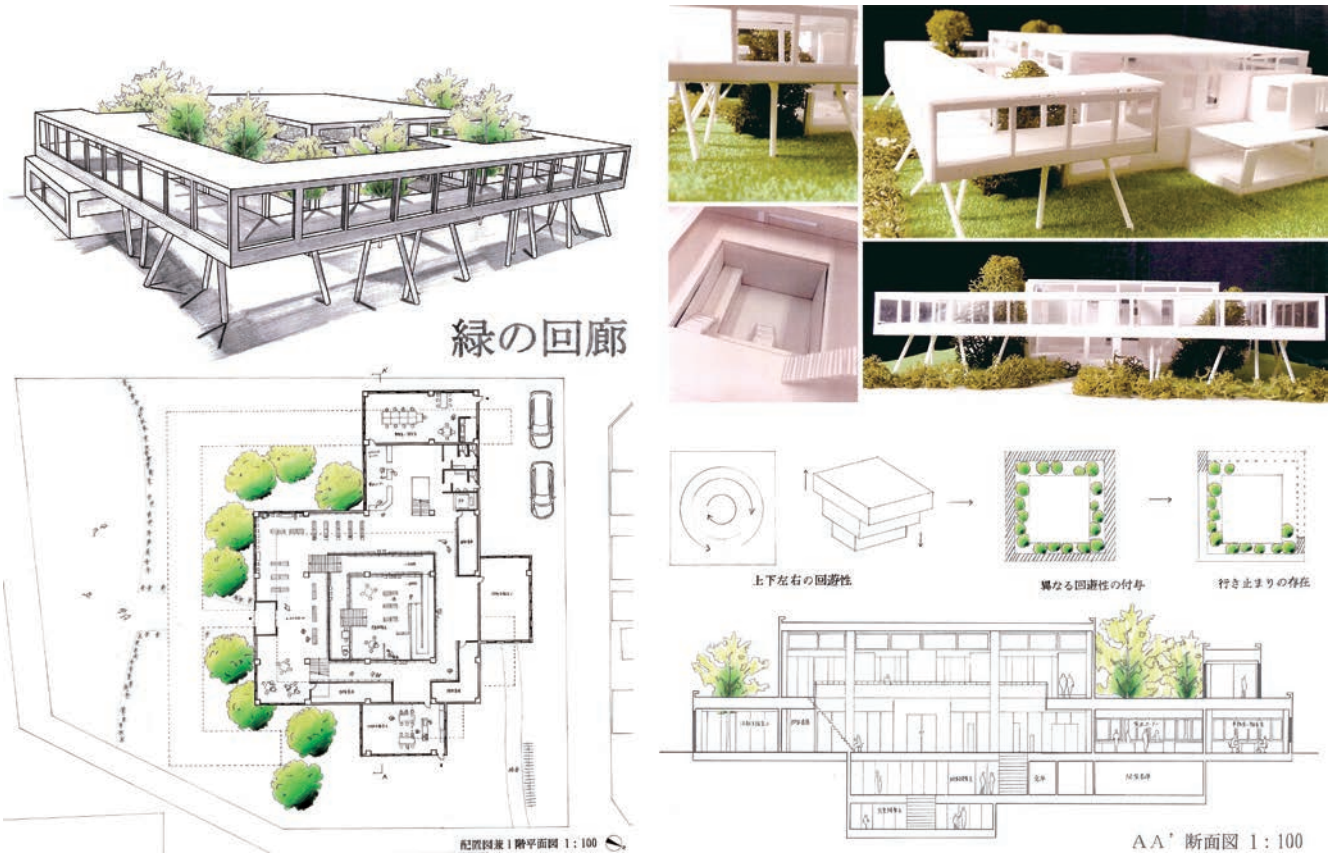
secret base

伏原小裕

将来まで本が好きでい続けられるよう、子供達が行きたいと感じる図書館、自ずと本を手に取りたくなるような空間を考える。子供達だけがわかる秘密の抜け穴。狭い道から地下への入り口に入ると、そこは土の壁でできた迷路のような空間が現れる。



緑の回廊

不動栞里

図書館に地域住民が集う憩いの場という役割を与えた。中に入ると、見渡す限り一面を本が囲み、緑の見える方へ足を向けると、そこには違う回遊性を持った回廊が広がっている。角を曲がるたびに新しい景色が生まれ、人々の生活の新たな1ページとなっていく。